

令和の日本型学校教育

3.2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

2020年代を通じて実現を目指す学校教育
「令和の日本型学校教育」の姿

N | T | S
National Institute for
School Teachers
and Staff Development
独立行政法人教職員支援機構

＼全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現／



子供の学び

- ✓「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に充実されている
 - ✓各学校段階において、それぞれ目指す学びの姿が実現されている
- #個別最適な学び #協働的な学び
#主体的・対話的で深い学び #ICTの活用



教職員の姿

- ✓環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続けている
 - ✓子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている
 - ✓子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている
- #教師の資質・能力の向上 #多様な人材の確保 #家庭や地域社会との連携
#学校における働き方改革 #教職の魅力発信 #教職志望者の増加



子供の学びや
教職員を支える環境

- ✓ICT環境の整備により全国の学校で指導・支援の充実、校務の効率化等がなされている
 - ✓新しい時代の学びを支える学校教育の環境が整備されている
 - ✓人口減少地域においても魅力的な教育環境が実現されている
- #ICT環境の整備 #学校施設の整備
#少人数によるきめ細かな指導体制



Learn Well, Live Well
いつだって、誰だって、新しい可能性を



小松市教育大綱

3. 教育理念

Learn Well, Live Well

いつだって、誰だって、新しい可能性を

良い学び（教育）が、良い暮らし（人生）につながる。
誰でも学びたいときに学べる環境がある。
「学ぶ意欲に応えたい。」それがこまつの教育理念。

4. 教育目標

あらゆる世代の成長が社会の持続的な発展に

教育は社会発展の根幹。
学校教育や生涯学習だけでなく、日々のちょっとした
学びなど、全ての学びを社会の持続的な発展につなげ
ていく。

こまつの教育大綱



Learn Well, Live Well

いつだって、誰だって、新しい可能性を

令和7年4月

小松市

小松市教育委員会

5. 教育方針

誰もが輝ける「学びのBest Balance」

一人ひとりに合わせて進める「個別最適な学び」と
互いに学び合う「協働的な学び」との融合など、様々
な要素をバランスよく組み合わせた教育で資質・能力
を伸ばす。



学びのBest Balance

「主体的・対話的で深い学び」の一層の充実を図り、
一人一人に確かな資質・能力を育成するために



個別最適な学び

子供が自分に合った学び方を選び、
自己調整しながら主体的な学びを進める

協働的な学びが充実するための個別最適な学び

★子供が最適な学び方を選択するためには、
子供の実態や発達、教科や単元の特性などを
視野に入れた、**単元構想**と準備が必要です。

★子供がどんな学びをしているか、**見方・考
え方**を働かせているか、全ての子供が目標
を達成しているか**を見取る**ことが大切です。

一体的
に充実

協働的な学び

多様な他者と関わり合い、学び合い、
考えを広げ深めてよりよい学びを生み出す

★子供たちの学びの深まりや新たな課題発見
につながるよう、**学びを関連付け**ながら学
習を進めていくことが大切です。

★その教科や単元で付けたい資質・能力に全
員が達するために、**見取りをもとにした適
切な教師の関わり**が必要です。

自己の学びの質を高めるための協働的な学び



様々な「ベストバランス」を意識しましょう

◇教師の指導と子供の主体

◇インプットの間とアウトプットの間

◇一斉学習と個別学習

◇基礎・基本の定着と活用力の育成

◇デジタルとアナログ

など

学びの基盤 ◇ICTの活用 ◇生徒指導の4つの視点 ◇多様性への配慮 ◇学習環境の整備

現状と課題

- 学校訪問を通して

	子供の姿	教師の姿	学習環境
【現状】	ICTの活用 学び方を選択 個別最適な学び 協働的な学び	単元・授業デザインの工夫 ICTの活用意識 学びの場の設定・時間の確保	学習用端末機種変更 多様な学習形態 (個人、ペア、グループ…)
【課題】	個別・協働 一体的 な学び 必要感 のある学び 自ら学びを 進める (自立)	実態 の把握 ICTの 効果的 な活用 教える一任せる (委ねる)	魅力的 な学習環境 教室・机椅子 内容・時間・ペース
	学びの 深まりの実感 基礎基本の 定着	学習状況の 見取り 授業の ねらいの達成	学校規模

多様な学びの場の設定



【学習活動・内容に応じた多様な集団編成】

- ① 個別（1人）：課題に向き合う、自覚化を図る
- ② 小集団（3～4人）：全員発言、対話的に学ぶ
- ③ 全体（20～35人）：多様な考えにふれ、深める



様々な「ベストバランス」を意識しましょう

◇教師の指導と子供の主体

◇インプットの間とアウトプットの間

◇一斉学習と個別学習

◇基礎・基本の定着と活用力の育成

◇デジタルとアナログ

など

【教師の役割】

教える人から、学びの場をデザインし、伴走する人へ

ICTの活用

学びの基盤 ◇ICTの活用 ◇生徒指導の4つの視点 ◇多様性への対応 ◇学習環境の整備

【児童生徒にとって】

- ①特別な道具 ⇒ 文房具
- ②使ってみる ⇒ いつでも使える
- ③指示されて使う ⇒ 自ら使う



【教職員にとって】

効率化

- ①授業準備等
- ②学習状況の把握

プリントの印刷・配布、集計
拡大印刷、板書
ノート、ワークシートの提出、丸付け

- ③教師の指導 ↓ ⇒ 児童の主体 ↑

研究指定校による実践研究

稚松小学校

- R6～R8
- 令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究

松東みどり 学園

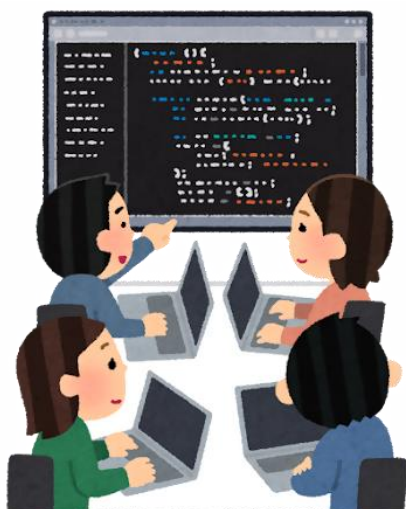
- R6～R8
- 未来の学びづくり研究事業
- R8～
- サキドリ研究事業

向本折小学校

- R7～R8
- 授業力向上研究事業（学びに向かう力の育成）

芦城中学校

- R7～R8
- 授業力向上研究事業（学びに向かう力の育成）



個別最適な学び・協働的な学び
一体的充実

研修観の転換

変化を前向きに受け止め、
探究心を持ちつつ自律的に学ぶ教師



<参加者を主語にした「研修デザインの三角形」>



・参加者は、研修にどのような心持ちでのぞむだろうか

・参加者は、研修の中で、どのような気づきを得ていくだろうか

・参加者は、研修後、どのように業務（授業）に向かうだろうか

参加者の視点に立って、その状況を丁寧に想像し、デザインする。